

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良くなっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・気温が高くなるなど、天候に恵まれ、客の動きも非常にスムーズになっている。
		一般小売店〔土産〕（店員）	来客数の動き	・3か月前に比べると新千歳空港利用の乗降客数は増えている。北海道観光が去年から少しずつ回復してきたといえる。要因は良く分からないが、愛知万博の効果で国内旅行の需要が喚起されている面もあると考えている。
		旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・前年比で110%の来客数となっている。
	やや良くなっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・天候が安定しており、夏物が比較的安定した売上を確保している。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・6月に入り、割と天候に恵まれたこともあり、得意先への来客数が増えていると感じる。それが当店の売上にも影響してきている。
		百貨店（役員）	お客様の様子	・今月に入ってから雨の量も少なく、夏型の天候が続いているので、季節商品、特に夏物衣料の動きが目立つ。またタイミングの良いサマーバーゲンも期待通りで、買方は慎重ではあるが、売上は前年を上回っている。ただし家具等の大型耐久消費財についてはあまり奮わない。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・5月より販売量が少し落ちているが、3か月前と比べると少し伸びている。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・新年度に決まった公共工事が始まっており、いくつかの地域で工事需要が発生しているため、若干客数が上向き傾向にある。
		コンビニ（店長）	販売量の動き	・今年は冬が長かった分、ずっと横ばい感があったが、今月は好天に恵まれ、飲料、アイスクリーム、冷凍食品等の買物点数が好調で、ようやく横ばい感から脱した。
		衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・商品単価はそれほど変わらないが、客の買上率が上昇しており、販売量が増えている。気温が上がって夏物が売れているという面はあるが、ここ2～3か月の売上の動きは前年比120%と伸びが上向きになっている。
		衣料品専門店（店員）	お客様の様子	・現金で買物する比率が上がっている。
		家電量販店（地区統括部長）	販売量の動き	・AVデジタル商品が堅調で家電をリードしている。OA機器はやや苦戦しているが、好天によりエアコンが好調である。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・今月は新規客が増えていて、販売台数が前年より増えている。
		観光型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・海外からの旅行者は相変わらず好調で、全体宿泊数の2けた増加の支えになっている。単価は昨年より若干低めになっているが、下がり幅は縮小している。
		旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・ハワイやアジア、中国方面は伸び悩みをしているが、ヨーロッパを中心に客の動きは好調である。遅れていたハネムーンや家族旅行も動き始めた。
美容室（経営者）	お客様の様子	・来客頻度が以前より多くなってきている。		
変わらない	商店街（代表者）	販売量の動き	・6月の週末は好天に恵まれ、アウトドアの動きと関連して、焼肉店の販売量が増えた。豚や鶏は横ばいであったが、ジンギスカンに使うラム肉の販売が好調であった。	
	商店街（代表者）	お客様の様子	・6月に入って天候も落ち着き、季節商品の売上も少しずつ上昇気運になってきている。	
	商店街（代表者）	単価の動き	・今月は気温の高い日が続き、夏物商戦としては、販売量からみた客の購買状況は悪くはないが、単価の低いものに集中してしまっていて、全体の売上としては上がっていない状態である。	
	商店街（代表者）	単価の動き	・好天が続いているので客数は伸びているが、客単価はそれほど伸びていない。	
	百貨店（売場主任）	お客様の様子	・今月は通常価格での夏物の最終消化を図る月だったが、7月の値下げ待ちの客が非常に多くみられた。	

	スーパー（店長）	単価の動き	・客数は前年比102%と前年を上回っているが、客単価がなかなか上がらず、売上は前年より5%以上も落ち込んでいる。特に夏物衣料の売上不振が目立つ。
	スーパー（店長）	来客数の動き	・6月は気温上昇により、衣料品は前年比97%と前月から8%のアップとなる。特に父の日のギフト需要や本人需要で売上を一気に稼ぎ出したほか、季節商品の浴衣、Tシャツ、サンダル、帽子等は前年比で10%の増加を示している。主力の食品は前年比95%と前月から3%マイナスの状況である。住居用品は、改装に伴う売り尽くしセールやオリンピック需要があった前年と比較して客の対応が弱く、前年比94%となっている。なお、テナント入居している専門店等については前年比91%と前月並みの売上で推移している。
	家電量販店（店員）	来客数の動き	・客数が少しずつ増えてきている。客は色々な店を良く回っている。
	その他専門店 [造花]（店長）	販売量の動き	・客の買い方をみると、利用回数が少ないという傾向が続いている。
	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・6月に入り、季節的には一番良い時期と考えるが、相変わらず客数が伸びない。先月に続き、10%のダウンとなっている。
	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・今月は天候が影響し、昼食はビジネス客が暑さで出歩かない分、売上が下がった。夕食はビールを飲みに来る客が増え、前年の売上を超えた。観光客も順調に来店しているようだった。個室では本州系企業の会合が目立ち、前年を大きく超えた。全体では変わらないが、もう少しでやや良くなると判断できるところであった。
	スナック（経営者）	来客数の動き	・6月に入ってから少しずつ観光客も入り、新しい客が街中を歩いているのを見かける。あまり変わりはないが、少しは良くなっている。
	スナック（経営者）	来客数の動き	・5月はゴールデンウィークもあり、繁華街でお金を使う人は少なかったが、6月は総会などの二次会での利用があり、多少、客の入りは良かった。
	タクシー運転手	お客様の様子	・依然として乗り控えの感がある。6月もイベントがあった割には売上がいまいちである。
	設計事務所（所長）	競争相手の様子	・忙しい事務所とそうでもないところと二極化しているが、全体数として仕事は少ないようだ。リフォーム、改修工事などはそれなりにあるが、新築物件の動きが鈍い。
	設計事務所（職員）	お客様の様子	・温泉地の大手ホテル経営者の話によると、入込客数は昨年から10%減とのことである。宿泊客は圧倒的に道内からが多いことから、愛知万博や竹島で代表される外交問題による影響ではなく、北海道の景気が悪いから入込客数が減少していると分析している。
やや悪くなっている	コンビニ（エリア担当）	競争相手の様子	・デフレの状況の中、競合店が商品の販売価格を下げている。
	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・呉服関係の仕事をしているが、近頃は展示会でも客の出足が非常に悪い。
	家電量販店（経営者）	販売量の動き	・買い控え傾向がますます顕著に現れている。家電品については、故障後の買い換えが多く、故障前の買い換えはほとんどない。
	その他専門店 [医薬品]（経営者）	来客数の動き	・イベントやセールでの集客が悪い。
	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・緩やかだが、はっきりと来客数が減少している。首都圏や関西からの来客が落ち込み、愛知万博の影響が顕在化してきていると推測される。地元客の動きは依然として良くない。
	タクシー運転手	来客数の動き	・観光客の入込が前年と比較して落ち込んでいる。また市内の移動人口が少ない。
	観光名所（役員）	来客数の動き	・函館への観光入込客数、当社のロープウェイ輸送人員とも前年比で1割強の減少となっている。
悪くなっている	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・成約するまでの時間が前よりも随分かかりすぎて、同じ時間内でも販売量が著しく落ちている。
	乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・昨年より販売量が大きく下がった。

		タクシー運転手	来客数の動き	・6月はYOSAKOIソーラン祭りや札幌祭り等のイベントがあり、タクシーの利用を期待していたが、昨年までと比べて極端に減っている。雨の日が少なく、天気の良い日が多かったため、全般的にタクシーの利用客が少なかった。
		住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・販売量の低迷と並行して、単価を低下せざるを得ない状況の現れが、業績低迷の一番の要素となっている。
企業 動向 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	家具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・夏場に契約している請負物件が好調である。
		輸送業(支店長)	取引先の様子	・本州向け鉄骨・コンクリート製品等の建設関連物資が順調に推移している。道内もビル、マンション等の建築が発生している。ここにきて建築物件は道内、道外とも好調となってきた。
		通信業(営業担当)	取引先の様子	・ここ最近、取引先の様子として、受注状況が堅調、好調に推移しているとの話が多い。
	変わらない	食料品製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・荷動きがここ数年、無いほど低調で、価格も安い。
		食料品製造業(団体役員)	受注量や販売量の動き	・天候不良による農作物の育成遅れや水産物漁獲の不漁による原料価格の高値推移で企業の採算面が悪化している。
		輸送業(営業担当)	取引先の様子	・当初予算では今月より取扱数量も持ち直す予定であったが、原油の再高騰により、特に外航船による輸出入貨物が減少気味である。
		通信業(営業担当)	取引先の様子	・今月も受注量など例月に比べての変化はない。良くも悪くもなっていない。
		金融業(企画担当)	それ以外	・設備資金の需要は低調である。本州系企業の大型投資が全体を押し上げているが、道内企業の設備投資意欲は弱い。大型スーパーの進出している地方都市の商店街は客足が遠のき厳しい。原材料仕入価格の値上がりは多くの企業の収益を圧迫している。
		その他サービス業[建設機械リース](営業担当)	受注量や販売量の動き	・建設投資が減少し、建機レンタルなどの建設業界の川下産業は受注活動に躍起になっているのが現状である。
	その他企業[コンベンション担当](従業員)	受注量や販売量の動き	・道外客に関しては、愛知万博や航空会社のトラブルによる影響により動きが鈍い。また東南アジアからの旅行者については、反日感情による影響が薄れ、若干回復傾向にある。	
やや悪く なっている	その他非製造業[機械卸売](従業員)	受注量や販売量の動き	・3か月前はまだ前年度下期の仕事の消化時期に当たり、多少工具資材の購入気運が強かったが、現在は今後の見通しから手控え傾向にある。	
悪く なっている	輸送業(経営者)	取引先の様子	・輸送関係は燃料等の値上げで企業収益は相当ひっ迫している状況である。	
雇用 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	求人情報誌製作会社(編集者)	求人数の動き	・昨年と比較して、コンビニエンスストアと飲食店の求人数の伸びが著しい。しばらく下落傾向が続いていたスナックの求人も4月からプラスに転じており、6月は前年比で18%のアップとなっている。
		職業安定所(職員)	求人数の動き	・新規求人数は前年比でみると5か月連続で増加している。
		学校[大学](就職担当)	雇用形態の様子	・企業からの採用内定が順調に進んでおり、重複内定者が増えている。複数社からの内定通知を受け取っている学生は、最終的な会社を決めかねている状況が続いている。
変わらない	人材派遣会社(社員)	求人数の動き	・新規求人は増加しているが、選考基準が高く、なかなか採用に至っていない。また道外企業の進出に伴う求人問い合わせも目立っており、派遣のオーダーも拡大基調となっている。これらのことは企業が社員の採用には相変わらず慎重であり、人件費や経費についても無駄な経費は一切使わないという企業の意志の現れとみえ、決して景気が良い方向に向っているとはいえない状況である。	

	求人情報誌製作会社（編集者）	採用者数の動き	・求人広告の決定率が企業規模や職種によって格差が拡大してきている。安定成長企業の決定率は高いが、飲食や小規模販売店等は低い状態になっている。
	求人情報誌製作会社（編集者）	周辺企業の様子	・採用控えがやや強まっている傾向がうかがえる。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・土木建設業の受注減による影響は大である。目に見えない自主廃業も多い。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数が前年に比べ0.3%減少した。パート求人占める割合が35.3%と前年に比べ3.4ポイント上昇している。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数が増加し、有効求人倍率も上向きになっているものの、就業地が地元である求人はそれ程増加していない。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年比で16%の増加となった。業種別にみると、増加した業種は製造業、飲食業、サービス業で、減少した業種は卸小売業となっている。またパート求人割合は36%と依然として高い割合を占めている。
やや悪くなっている			
悪くなっている	-	-	-